

# 史跡 鷺ノ木

		B.C.9,000		B.C.3,000		B.C.1,000		A.D.300		A.D.800		
		B.C.13,000		B.C.5,000		B.C.2,000		B.C.300		A.D.600		
日本	旧石器時代	縄文時代						弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	平安時代	鎌倉時代
		草創期	早期	前期	中期	後期	晩期					
北海道	旧石器時代	縄文時代						続縄文文化	縄文文化		アイヌ文化	
		草創期	早期	前期	中期	後期	晩期		オホーツク文化	トドナイ文化		

鷺ノ木遺跡は、北海道南部の噴火湾（内浦湾）に注ぐ桂川の河口から約1km内陸に位置します。桂川の左岸に合流する上毛無沢川と下毛無沢川に挟まれた、標高40m前後の低位段丘から標高70m前後の高位段丘上に立地しています。時期は縄文時代早期から続縄文時代まで利用され、特徴的なものは縄文時代後期（約4,000年前）の環状列石や<sup>かんじょうれっせき</sup>堅穴墓域等の<sup>たてあな</sup>祭祀・<sup>さいし</sup>儀礼に関する遺構です。



## 環状列石と堅穴墓域がある場所

環状列石は高位段丘上の平坦な地面に造られており、中央にある楕円形の配石とそれを中心に環状に巡る2重の列石で構成されています。一番外側の列石は直径およそ37m×34mであり、全体の形状が円に近い形をしています。北海道は古くから環状列石の存在が知られていますが、鷺ノ木遺跡の例は全体がわかる状態で現存する北海道最大規模の環状列石です。鷺ノ木地区では寛永17（1640）年に大噴火した駒ヶ岳の噴出物が1m以上堆積し、その地下にある遺跡を覆っています。そのため後世の耕作や木根等による改変の影響を受けず、環状列石等の保存状態はとても良好です。一番外側の列石は長さ40cm程の平らな石を横位に、

その内側の列石はやや大きな石を縦位や横位に、中央の配石はやや小形の石を2～3重に配置する傾向があります。半数近くの石を地面に立てています。石の数は602個であり、そのうち8割の石質は安山岩です。桂川の河口付近や鳥崎川流域の川原石は大きさや石質等の条件が合っており、遺跡に近い所であれば桂川河口から石を運搬した可能性があります。環状列石から出土する遺物は少ないですが、列石の外側約1mの地点から埋設土器が1体発見されています。縄文時代後期前葉の土器が底と口縁を欠いた状態で埋められており、環状列石の時期の基準になります。

環状列石の南側約5mの位置に堅穴墓域があります。



環状に巡る2重の列石



真上から見た環状列石

# 遺跡

## 高橋 毅 (たかはし つよし)

森町教育委員会社会教育課文化財保護係係長

1977年神奈川県生まれ。2007年國學院大學大学院文学研究科博士過程後期単位取得退学。07年度から現職。以来、町内文化財の保護や調査に携わり、現在は鷺ノ木遺跡の整備事業に取り組んでいる。

竪穴の形状は約12m×9mの楕円状に深さ20cm程を掘り窪めています。竪穴内に7カ所の墓と4カ所の柱穴状の小さな穴を造っています。墓は大きなもので直径2m、深さ1mの円および楕円形であり、墓を覆う土からは縄文時代後期前葉の土器が出土しています。小さな穴は供献品あるいは墓標のような柱状のものを設置した可能性があります。環状列石の東側約8mの位置にもよく似た遺構が発見され、竪穴の底には炭化物や焼土が堆積しています。竪穴墓域は、千歳市キウス周堤墓群に顕著な縄文時代後期後葉に竪穴を掘り上げた土を周囲に積み上げた周堤墓に関する可能性も指摘されています。



発掘調査中の竪穴墓域

他にも、環状列石や竪穴墓域と同じ段丘の縁辺部から配石遺構や竪穴住居址が発見されています。配石遺構は4カ所を確認し、そのうち配石2号は円形で径3.7m、10~40cmの石を約300個敷き詰め、時期は縄文時代後期前葉から後期中葉頃です。竪穴住居址は1軒が確認され、大きさ5m×4m、時期は縄文時代後期初頭から後期前葉で、環状列石よりもやや古いと推測されます。

このように高位段丘上では環状列石や竪穴墓域、配石遺構といった祭祀・儀礼に関連する遺構が多く、時期がやや古い1軒の住居址では集落とは言い難い内容です。環状列石は桂川河口に近い低位段丘ではなく、高低差70m、距離1kmの道のりを要する高位段丘に石を運搬して造られました。効率の良さや生業の観点からは、わざわざ石を遠くに運ぶことの意味はわかりませんが、当時の人々の暮らしや考え方からすれば必要なことだったのでしょう。高位段丘は眺望が開け、駒ヶ岳や周囲の山並みを見渡すことができ、11月上旬の立冬の頃に駒ヶ岳山頂からの日の出を望むことができます。ここは当時の人々が発見した祭祀・儀礼のための特殊な場所だったと考えられます。



埋設土器

## 史跡 鷺ノ木遺跡

### 遺跡の価値

鷺ノ木遺跡の南側、下毛無沢川の対岸にある鷺ノ木4遺跡から、森町の名物である「イカ飯」によく似た土製品が出土しています。これは縄文時代後期前葉に北海道南部から北東北を中心として出土する鐸形土製品ひんの一種であり、同様の土製品は鷺ノ木遺跡からも出土しています。鐸形土製品は中が空洞で、お寺の鐘や銅鐸どうたくの形に似ることから付いた名前です。用途はわかりませんが、環状列石がある遺跡から多数発見されており、祭祀・儀礼に関連するという説があります。

鷺ノ木遺跡は大規模な環状列石が北海道南部から北東北の範囲で構築されたことを示す貴重な証拠となる遺跡です。津軽海峡を挟み、物の交流だけでなく祭祀・儀礼に関わる大規模な構造物が類似する現象は、北日本における人々の交流や墓制、精神世界を考えるうえで示唆に富んでいます。今後さらなる調査や研究により、遺跡の性格や価値がさらに深まる余地が残されています。

### 保存と整備

鷺ノ木遺跡は、平成15（2003）年に森町教育委員会が高速道路（北海道縦貫自動車道路）建設に伴う発掘調査を行ったところ、事前に全く把握されていない大

規模な環状列石と竪穴墓域が発見されました。関係者による協議の末、平成17（2005）年に高速道路をトンネル化して環状列石を現状保存することが決定しました。翌年、環状列石と竪穴墓域の範囲2720.5㎡が国の史跡に指定され、平成24（2012）年に周辺の確認調査の成果から約8万㎡の範囲が追加指定されました。この間、遺跡地下で行われたトンネル工事は一部を手作業で掘り進めるなど遺跡の現状維持に最善が尽くされ、平成23（2011）年に遺跡地下の高速道路は供用開始されました。道路建設用地内の遺跡が保存されるケースは少なく、トンネル工法により保存された遺跡はごくわずかです。中でも鷺ノ木遺跡はトンネルの上部と環状列石がある遺跡面との土被りは3mに満たず、他の例と比較しても著しく浅いことが特徴です。

鷺ノ木遺跡は平成27（2015）年に世界文化遺産登録を目指す『北海道・北東北の縄文遺跡群』の「構成資産」から除かれ「関連資産」となりました。以来、世界遺産の審査対象となる遺跡ではなくなりましたが、構成資産と一体的に保存・活用していくことは目標の一つです。現在、高速道路の設計変更に伴い現地保存された鷺ノ木遺跡の適切な保護を推進し、活用していくための整備計画を作成しています。環状列石が造られた場所で、多くの方々に縄文の世界を体感してもらいたいと考えています。



鷺ノ木・鷺ノ木4遺跡出土の鐸形土製品



道路上に保存された環状列石と駒ヶ岳・噴火湾